

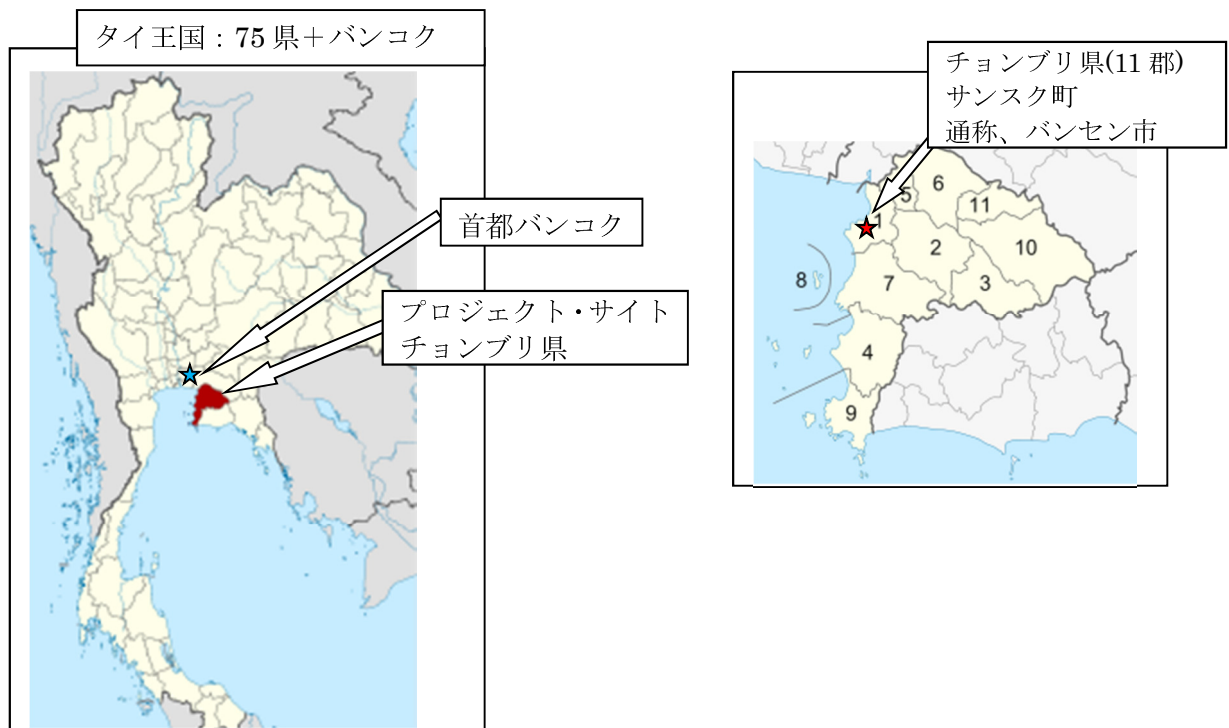
佐久大学は、佐久市との地域包括連携協定の中で3年間のJICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）を実施中です。

全体の期間：平成28年（2016年）1月～平成30年（2018年）12月

プロジェクト名：タイ、チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト
—サンスク町をパイロット地域として—

プロジェクトの目標：タイ、チョンブリ県、サンスク町における高齢者を対象とする地域包括ケアネットワークが構築され、介護、看護の人材が育成される。

プロジェクトの地理的な位置：



2014年度、タイ保健省の最新の発表(http://web.nso.go.th/en/survey/age/tables_older_50.pdf)によるとタイはすでに高齢社会へ突入し、高齢化率は14.9%（60歳以上、10,014,705人）です。本プロジェクトを開始したサンスク町（住民登録者約5万人）の高齢化率は約10%であり、地域における公的な高齢者ケアサービスの改善を目指しています。佐久市のこれまでの地域高齢者対策「地域包括ケア—世界最高健康都市構想」を参考にしつつ、タイ、サンスク町の既存のお寺を中心とする伝統的な集会、家族による高齢者ケアを尊重し、地域で高齢者を守るシステムづくり、在宅看護、ヘルスボランティアによる在宅ケアを促進する活動を実施します。

プロジェクトの活動により期待される5つのアウトプット

1. サンスク町高齢者ケア強化方針の下、「高齢者保健医療・介護推進委員会」が設置される。
2. 既存の「地域保健委員会」が体系的に活動できるように再構築される。
3. 在宅ケアを推進するためのシステムづくり、及び活動を実施する。
4. 既存のお寺単位の介護予防活動が、人々の健康状態にあったプログラムに改編され高齢者が支え、支え合う活動を基本に、きめ細かなプログラムが実施される。
5. 佐久市で研修を受け、帰国した人たちが地域のキーパーソンとなり、活動の継続と発展に寄与する。

本プロジェクトでは、3年間に渡り毎年、タイより研修員を招き、**看護グループと介護グループそれぞれの研修**が実施されます。

第一回看護研修は、平成28年（2016年）5月18日～5月31日の期間実施され、すでにこのホームページで報告済みです。今回、9月末より10日間の介護研修が下記の通り実施されましたので報告します。

介護研修：平成28年（2016年）9月29日～10月8日（10日間）

研修参加者：7名（対象者：プロジェクト対象地域のヘルスボランティア6人、
引率者：国立ブラパ大学看護教員1人）

研修施設：佐久大学、佐久市、上田市

研修内容：日本の保健医療システム、佐久市における介護サービスの流れ、高齢者の理解について、高齢者模擬体験、高齢者健康増進プログラム、ペープサード（紙人形劇）による認知症理解の進め方、リハビリテーション、訪問介護および施設ケア研修等



佐久大学キャンパス内で高齢者模擬体験中



階段の上がり降りの大変さを痛感しました。



佐久市お達者応援団育成プログラムに参加。



佐久市民生児童委員さん達との事例検討会を行いました。



在宅リハビリの研修、一人一人がしっかり練習しました。



ペープサード作成中です。



“糖尿病予防に健康体操をしよう”をテーマにペープサードを発表しました。



「ローマンうえだ」で介護研修中。



7人中の5人は、初めて日本を訪問しました。「高齢者ケアは、細かいサービスに至るまで、よく整っていると感じました」と研修員の談。



研修・閉講式、実質的な研修でした。

研修のまとめの会（10/7）

2つのグループに分かれて、完成したペープサード（紙人形劇）が発表されました。テーマは、①糖尿病を予防するため適度な運動をしましょう。②認知症を予防するため閉じこもらず、お寺の境内での早朝体操に参加しましょう。

研修員の発表による主な学びは以下のような点でした

1. 高齢者理解についての講義、および高齢者模擬体験用装具を装着し演習したことにより、高齢者の身体的機能や気持ちを良く理解することができた。帰国後のケアへ生かしたい。
2. ペープサード（紙人形劇）の作成により、1つの情報普及の方法を学ぶことができた。タイでは、このような人形劇や紙芝居は、子ども用に使うものであると多くの人は考えているが、高齢者ケアの指導に使うことができることに気づいた。
3. タイのヘルスボランティアの仕事は患者へのリハビリ支援が多いので、リハビリテーションの演習、施設での見学は良い学びとなった。
4. 高齢者への口腔ケアは現在やっていない領域であり、今後のサービスとして勉強になった。
5. 在宅ヘルパーケアへ同行し、日本のヘルパーさんはサービス内容を指定のフォームにきちんと記録し、ご家族への連絡ノートも記入していることがわかった。研修を通して、記録の利点を理解できたので、帰国後、サンスク町でもできるように仲間へその利点について伝えたい。